

奈良国立大学機構と両大学の取り組みについて、
今回は、主に、12 月後半から 2 月の動きを中心にお伝えします。

▼お知らせの種類▼

- A. 両大学共通イベント B. 奈良教育大学の取組
C. 奈良女子大学の取組 D. 法人運営に関すること
E. 榊理事長から

//////////▼注目 Topics▼//////////

- 【A-1】産地学官連携プラットフォーム設立に関する懇談会を開催
【A-3】「NU cross」企画：奈良県立医大・細井学長による講演を開催
【B-7】全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー交流会 2023 を開催
【C-8】「関西財界セミナー」で奈良女子大学が「輝く女性賞」を受賞

A. 両大学共通イベント

- 【A-1】産地学官連携プラットフォーム設立に関する懇談会を開催（12/23）

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/2022/230113.html>

- 【A-2】国立大学法人支援課による事務職員勉強会を開催（1/27）

文部科学省国立大学法人支援課 石川課長補佐に国立大学を取り巻く状況や予算の要求・執行等々についてご講話いただき、活発に質疑応答が交されました。

- 【A-3】奈良カレッジズ連携推進センター 異分野交流プロジェクト「NU cross」企画として、奈良県立医大 細井裕司学長を講師に迎え『500 年ぶりの第 3 の聴覚「軟骨伝導」の発見と実用化』を開催（2/17）

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/2022/230224.html>

<開催案内>

- 一般社団法人ボーケン品質評価機構による就職説明会
～奈良カレッジズ連携推進センター 異分野交流プロジェクト
「NU cross」企画～

日 程：令和 5 年 3 月 2 日

<https://forms.gle/FvPci8fUNTD4PPUA8>

B. 奈良教育大学の取組

【B-1】 第13回百済文化国際シンポジウムを開催。(12/24)

<https://www.nara-edu.ac.jp/international/kudara.html>

【B-2】 学生の書作品が「第2回 ならまち年賀状コンクール」で入賞

<https://www.nara-edu.ac.jp/news/2023/01/2.html>

【B-3】 株式会社リバネスと「L-RAD の利用に関する協定書」を締結 (1/13)

https://www.nara-edu.ac.jp/news/2023/02/entry_20.html

【B-4】 現職教員のための公開講座 「たのしむココロに学びの本質は宿る－
「親子で楽しむ分解ワークショップ」の講座を実施 (1/21)

<https://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/2022/08/r4tiikisyusai.html>

【B-5】 プレスリリース『「奈良のシカ」の起源に迫る－紀伊半島のニホンジカの遺伝構造とその形成過程－』を発出 (1/31)

https://www.nara-edu.ac.jp/news/2023/01/entry_18.html

【B-6】 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟主催「減災教育フォーラム～減災教育を地域に広げ、未来につなげるために～」に及川教授と学生が登壇 (2/11)

<https://www.nara-edu.ac.jp/news/2023/02/entry.html>

【B-7】 全国ESDコンソーシアム/ステークホルダー交流会2023を開催(2/17,18)

https://www.nara-edu.ac.jp/ESDC/esd_sdgs/esd_2023.html

<開催案内>

○令和4年度 奈良教育大学書道教育専修 卒業書作展

日 程：令和5年3月1日～5日

<https://www.nara-edu.ac.jp/event/4.html>

○令和4年度 陸前高田市文化遺産調査団報告会

日 程：令和5年3月18日

https://www.nara-edu.ac.jp/ESDC/esd/4_1.html

C. 奈良女子大学の取組

【C-1】 本学博士後期課程で執筆した博士学位論文をもとにした長辻幸さんの著書が「日本英語学会賞（著書）」を受賞 (11/5)

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/20230214.html>

【C-2】第17回「女性史学賞」授与式を実施（1/7）

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/20230124.html>

【C-3】国立大学協会×奈良市共催の大学改革シンポジウム「伝統工芸とデジタル技術の融合について」を開催（1/9）

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/20230112.html>

【C-4】男女共同参画推進機構とダイバーシティ推進センターが主催する「知る・学ぶ・伝える equality」連続講座を開催（12/14, 1/12）

<https://gepo.nara-wu.ac.jp/lecture-meeting/equality/>

【C-5】近鉄文化サロン阿倍野連携〈共催講座〉が開催（1/14, 2/11）

<http://www.nara-wu.ac.jp/liaison/lecture/20230114/index.html>

【C-6】奈良経済同友会との交流・懇談会を開催（1/16）

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/20230125.html>

【C-7】関西圏女子大学連携プロジェクト 第11回異分野交流会を開催（2/4）

<https://gepo.nara-wu.ac.jp/nwu-ibunya/>

【C-8】「関西財界セミナー」で本学が「輝く女性賞」を受賞（2/10）

<https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/20230216.html>

【C-9】奈良女子大学けいはんな公開講座「化石から考える太古の関西地方」を開催（2/18）

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/pdf/20230206_1.pdf

【C-10】「大阪・関西万博」へ向けたキックオフシンポジウムのパネルディスカッションに、今岡学長が登壇（2/19）

<https://www.city.nara.lg.jp/soshiki/4/164492.html>

<開催案内>

○健康なら 21Step アップ事業 第5回フォローアップ研修会

「“with コロナ”の体力保持・増進」

日 程：令和5年3月4日

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2022news/pdf/20230126_3.pdf

○文学部公開講座 地域史の試み

「けいはんな歴史文化共同研究所」ことはじめ

日 程：令和5年3月18日

D. 法人運営に関すること

【D-1】令和5年度の奈良国立大学機構に関する予算等

奈良国立大学機構への予算措置に関し文部科学省から通知がありました（12月）（令和4年度追加配分、令和4年度第2次補正予算、令和5年度予算案）
予算案の状況については、両大学の教育研究評議会、各学部の教授会などにおいて、全学への共有を図っています。

【D-2】連携教育開発センター

連携教育開発センターのWEBページを整備しました。令和5年度の奈良カレッジズ学問祭や教養教育科目の連携開設等を進めています。

（開催状況等）https://www.nara-ni.ac.jp/research/renkei_center/top.html

【D-3】奈良カレッジズ交流テラスの整備（法人本部棟1階）

4月から使用可能となるよう整備を進めています。

【D-4】経営戦略室

令和6年度概算要求に向けた検討、理事長裁量経費の枠組みの整備、法人評価の対応、機構組織の内部質保証、寄附金募集力の強化について検討を進めています。

（開催状況等）<https://www.nara-ni.ac.jp/disclosure/keisen/top.html>

【D-5】同一法人内の柔軟な教員配置検討プロジェクトチーム

第1回会議を開催し、論点整理を行いました。これから具体的な事例づくりと制度面の検討を進めます。

〱
| \ / | E. 榊理事長から
〱

「ふるきをたづね あたらしき 道にすすめや ひとすぢに」

1949年に誕生した奈良教育大学と奈良女子大学は、2022年の法人統合により奈良国立大学機構を発足させましたが、各々は1888年に設立の奈良師範学校と1909年に設立の奈良女子高等師範学校を前身としています。両組織が歩んだ100年を超す道程には我が国の歴史が刻まれており、各時代の人々の思いを知るためにも、今後の大学教育の進むべき道を考える上でも参考になる点が少なくありません。今回は、奈良女子高等師範学校の校歌が誕生した1917年前後の状況とその歌詞について考えてみたいと思います。

まず、1909年に全国で2番目に誕生した奈良女子高等師範学校には、日本社会から大きな期待が寄せられていたことが推察されます。それを裏付ける第一の証拠は、開学直後にキャンパス中央に建設され、いまでもその美しさを保つ記念館とその質の高さです。第二の証拠は、全国から優れた学生が入学したことです。1913年に国語漢文部に入学した小倉遊亀はその代表例と言えます。小倉遊亀は1917年に卒業後、国語教師として働きつつ、安田靫彦の下で画業の研鑽を進め、日本を代表する画家となりましたが、絵画への関心を深めたのは、在学中の学びであったと言われています。第三の証拠が、1917年に誕生した校歌の存在です。貞明皇后は16年4月奈良女子高等師範学校を訪問し、翌年に御歌を下賜され、これを歌詞とする校歌が誕生しています。表題に掲げたのは、この歌詞の最後の部分で、「温故知新」につながる歌詞ですが、学生たちに、人類の知的遺産を十分に学んだ上、新たな道を見出し、邁進するように励ましています。

校歌の誕生から100余年が経ち、人類社会は不透明な時代に入ったと言われていますが、時代の状況を的確に捉え、未来に向かって、新たな道を切り拓いていきたいものです。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲

バックナンバーは以下よりご覧いただけます。

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/narakoku/index.html>

また、学内掲示板以外のメールでの配信をさせていただいている方で、配信停止をご希望の方は、お手数ですが、
somu02@jimu.nara-wu.ac.jp まで、その旨お知らせください。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲